

クラス番号	601	担当教員名	角崎洋平
テーマ	私たちが生きる社会の理想を問い直し、現実的な公共政策を構想する力を身に着ける		
著書・論文 研究課題等	著書：『正義（福祉+αシリーズ）』（共著）ミネルヴァ書房、2016年。 『マイクロクレジットは金融格差を是正できるか』（共著）ミネルヴァ書房、2016年 『フードバンク：世界と日本の困窮者支援と食品ロス対策』（共著）明石書店、2018年 『ロールズを読む』（共著）ナカニシヤ出版、2018年 研究課題：①責任概念と時間射程を考慮した平等主義的正義論の構築とその公共政策への応用 ②生活困窮者等を対象とした家計改善支援、金融包摂、資産ベース福祉の在り方		

ゼミナール概要

キーワード：公共政策・福祉政策・経済政策・行財政システム・社会保障・福祉国家・貧困と格差・社会的投資

ゼミの目標

わたしたちは社会（地域社会・日本社会・グローバル社会）の中で生活しています。そして社会における様々な課題を解決する方法として公共政策（福祉政策・経済政策など）が存在します。みなさんの多くは、こうした社会の課題を公共政策で解決するために、本学の行政専修を選んだと思います。本ゼミでは、以下のような能力を持つ「公共政策の担い手」（公務員の福祉職や行政職・社協職員・議員・市民活動家・非営利活動や福祉に関係する事業の従事者）を養成することを目標にしています。

- A 社会が抱える重大な課題（＝公共政策の課題）や、あるべき社会（＝公共政策の目標）について明確にイメージすることができ、それを他者（市民）に説得的に説明できる。
- B 公共政策によって、社会的課題の解決やあるべき社会の実現ができていない（＝公共政策の失敗）ならば、何が原因なのか、的確に分析できる。

AやBの能力は、既存の公共政策の問題点を指摘したり、その改善策を提案したり、新たな公共政策を構想したりするために必要な能力で、まさにこれからの「公共政策の担い手」に必要とされる能力です。

授業計画と内容

3年生前期：講義・論文講読を通じて、公共政策の課題・目標・失敗についての基礎知識を身に着ける期間

- ▶ 原則として角崎が担当する講義「社会福祉政策論」「福祉行財政論」を履修し、福祉政策・行政の基本を学ぶ。
- ▶ 福祉政策に関する学術論文（毎回1～2本）を読み、論文で示されたテーマについてディスカッションする。
 ※ とりあげるテーマ例：福祉国家の擁護と批判、不平等・格差の是非、貧困・不健康の自己責任論、排除・差別、貧困世帯の家計、子どもと女性の貧困、家族内のケア役割分担、ベーシックインカム、社会的投資、など。
- ▶ 前期最終回授業では、各自の「関心のある社会的課題や公共政策」について、報告してもらう。

3年生後期：研究テーマ・研究方法を確立することで、公共政策の課題・目標・失敗について考察を深める期間

- ▶ 関心のある社会的課題や公共政策について、各自でそのテーマに関する基本文献（半年で1冊～3冊程度）を読んで、その内容を読書レポートとして報告する（各自のテーマに合わせて適切な文献を教員が推薦する）。基本文献の理解を踏まえて、自分が卒業論文で取り組むべきテーマ・研究方法を確定し、卒論執筆にとりかかる。
- ▶ 9月～10月は、実習が入っていない学生は4年生の卒論報告会に参加し、卒論についてイメージを深める。

4年生：卒論執筆を進め、公共政策の課題・目標・失敗について説明したり分析したりする能力を高める期間

- ▶ 春休み期間中の2月か3月に、卒論の第一次報告会を実施する（学外での合宿もしくは学内での集中ゼミ）。
- ▶ 9月中旬までに卒論を一通り完成させる。その後、順次各自の卒論を発表してもらい、ほかのゼミ生からコメント・修正意見・評価を受け、卒論をブラッシュアップする。

担当教員からのメッセージ



エントリーシートには、関心のある社会的課題・公共政策や、現状での進路希望（「悩み中」も可）について書いておいて下さい。将来公共政策に何らかの形で携わりたいと考えている学生、社会や福祉の現状に疑問を持ち始めている学生、また経済や金融・財政の観点から福祉社会や福祉国家について考えてみたい学生を歓迎します（担当教員は経済学部出身で、国の政策金融機関勤務経験もあります）。一方、本ゼミでは本や論文をできるだけたくさん読むことを求めますので、文章を読むのが嫌いな学生の履修はお勧めしません。「たくさん楽しんで、よく学んだ」二年間にしていきたいと思います。そのためのサポートは惜しみません。